

学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの教育研究上の目的

医学部医学科・医療健康科学部看護学科

本学は、学術の中心として広く知識を授けるとともに、深く医学及び医療健康科学を研究教授し、知的道徳的応用的能力を展開させ、人々の健康に貢献することを目的とする。

この目的を達するために、広く医学及び医療健康科学を世界に求め、高い倫理観、人間愛及び克己殉公の精神を備えた医療人を育成することを使命とする。

医学部アドミッション・ポリシー

本学の学是は「克己殉公」、すなわち“己に克ち、広く人々のために尽くす”ことであり、教育理念として「愛と研究心を有する質の高い医師、医学者の育成」を掲げ、多くの臨床医、医学研究者、医政従事者を輩出してきました。

この学是、理念、そして歴史ある私立医科大学という特長を基盤に、最新の医学を教育・研究し、広く国際的な視野に立った見識と豊かな人間性を備えた医師、医学研究者の養成に努め、人々の健康の維持・増進、社会に貢献することを使命と考えています。

本学では、この学是、理念そして使命を理解・尊重し、豊かな資質を持った次のような人を求めています。

1. 医学を学ぶ目的意識が明確で、医師、医学者となるに必要な知識・技能の修得のために自ら努力する人
2. 生命倫理を尊重し、医学を学ぶための知識・知性および科学的論理性と思考力を備えた人
3. 病める人の心を理解し、相手の立場で物事を考えることができ、主体性をもちつつ協働して学ぶことのできる人
4. 社会的な見識を有し、周囲との協調性を尊重しながら、自らを表現し、判断できる人
5. 世界の医学・医療の進歩と発展に貢献する強い意欲のある人

医学部カリキュラム・ポリシー

本学では、学是「克己殉公」の精神に則り、「愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成」をミッションとしています。その理念に則り、本学学生が医師、医学者となるために必要な知識・技能・態度を修得し、自ら考え判断でき、生涯にわたって学ぶことができるように、カリキュラムを編成しています。

1. コンピテンスの明確化と履修系統図の明示

すべてのカリキュラムが、8 領域からなるコンピテンスのどのコンピテンスを目指すものか明示し、学生自身が目的意識を持って学修を進める態度を身につける。

2. 能動的学修の重視

Early exposure プログラム、問題基盤型学習(PBL)、準備学習時間の明示、学修支援システムを用いた e-Learning などの充実を図り、主体的に考え、あるいは周囲と協働して学修する態度を修得する。

3. コア・カリキュラムとの整合性の重視

各講義、各プログラムの担当範囲とコア・カリキュラム項目の関連を明示し、医師になるために必要な知識を確実に学修する。

4. 共用試験(CBT, OSCE)の実施と臨床実習生、臨床研修医としての資格取得

臨床実習、卒業後の臨床研修を始めるために必要な知識・技能・態度を全国基準に基づいて評価し、その学修成果を確実にする。

5. 臨床実習教育の充実

期間を国際水準の約 70 週とし、クリニカル・クラークシップ方式主体で実施し、Workplace assessment を基本とした実習評価を行うことで、国際水準を満たすレベルの臨床能力を修得する。

6. 研究心、国際性、プロフェッショナリズムの涵養

研究配属、海外選択臨床実習、キャリア・ガイダンス、プロフェッショナルリズム教育などの充実により、医師、医学者となる自覚を持ち、思考力・判断力・表現力を向上させ、国際性やチーム医療のための協調性を涵養する。

医学部ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成を教育理念とする本学の医学教育は、医師となるための基本的知識、技能、態度の修得、自主的かつ周囲と協働して問題を発見し解決する能力の涵養と豊かな人間性の陶冶を目標としています。これらの資質及び能力を修得し、本学の学則に基づくすべての授業科目を修了し、試験に合格した者に学士の学位を授与しています。

医療健康科学部アドミッション・ポリシー

1. 豊かな感性を持ち、他者を尊重できる人
2. コミュニケーション力を持ち、協調性とリーダーシップを発揮できる人
3. 医療・看護を学ぶための基礎学力を備えた人
4. 医療・看護を学ぶための科学的論理性、思考力を備えた人
5. 医療・看護を学ぶ目的意識を持ち、看護師・保健師に必要な知識と技能を修得するために自ら努力する人
6. 医療・看護に貢献する意欲と知的好奇心のある人

医療健康科学部カリキュラム・ポリシー

- 1. 科学的・論理的思考を身に付け、人間性を涵養するための健康科学基礎科目**

看護の対象となる人々の身体的・精神的・社会的な側面を統合して理解するための基本的知識を修得できるよう、『語学』、『自然科学と情報科学』、『人文科学と社会科学』、『導入教育』の科目群を配置する。これらの科目履修を通して、科学的・論理的思考力を養い、人間性と品性を涵養し、多様な価値観を尊重したケアに繋げるための基礎を築く。
- 2. 医療の基本的知識と技能を修得するための医療基礎科目**

医療の基本的知識と技能を修得し、医療の科学のおよび社会的側面などを学修できるよう、『人体の構造と機能』、『健康障害と治療』、『健康支援と社会環境』の科目群を配置する。これらの科目履修を通して、看護の対象となる人々の総合的なアセスメント、看護実践、評価を行うための根拠となる医療の基本的知識と技能を養う。また、研究の概論に関する科目として「看護保健学研究概論」を配置し、人々の健やかな生活の実現に貢献するための基盤としての看護学研究の必要性や意義についての理解を促し、看護学の知識体系を構築する。
- 3. 看護の基本となる基礎看護学科目**

医療機関、在宅、保健機関、福祉施設、産業・職域、学校、研究機関など、様々な場で看護実践を行うために必要な基礎的な専門知識および技能を身に付けることのできる科目を配置する。これらの科目履修を通して、看護の基本理論や問題解決プロセス、診療・日常生活に伴う援助技術について学ぶ。また、看護の現場を効果的に管理し、リーダーシップを発揮するための基礎を築けるよう「看護管理学」を配置している。さらに、グローバル化に伴う多様な文化や価値観に対応できる能力を養うため、「国際看護学」を配置している。
- 4. 対象者のニーズに合わせた看護を実践する能力を養うための専門科目**

あらゆる発達段階、健康状態、生活の場にある人々のニーズに合わせた看護を実践する能力を育成するための科目を配置する。発達段階としては周産期や小児期、成人期、老年期、健康状態としては周術期・クリティカル期・慢性期・緩和・精神、生活の場における看護の視点から、地域包括ケアの理念や構造、具体的な支援体制などについて学ぶ。

5. 臨床実践に即した看護の統合科目

分野別に学んだものを統合し、臨床実践に繋げるための総合的科目を配置する。周囲と協働してチーム医療を実践するための「多職種連携論」、「多職種連携演習」や、看護実践の探究を通して継続的に看護の質向上に努めるための素養を養う「看護学卒業研究」を配置している。特に、緊急度・重症度の高い人々を対象とした救急看護に関しては、基本的な知識と技術を養う「救急看護学」を配置している。さらに、シミュレーションなどの演習を通じて臨床実践に応用できる知識・技術を学ぶ「救急看護実践演習」、臨地で実際の救急看護活動を学ぶ「救急看護学実習」を配置している。

6. 保健師養成のための保健師科目

地域の保健医療福祉等のニーズに対応した活動の計画と遂行に必要な知識と技術を修得するための『公衆衛生看護学』の科目群を配置する。

7. 学修成果の評価

学修成果の評価では、レポート、試験、学修態度などを数値化し、厳格な単位認定をする。

医療健康科学部ディプロマ・ポリシー

1. 対象者の健康の維持及び変化に対応するために必要な看護の知識と技術を修得している。
2. 幅広い教養を身に付け、臨床現場と地域医療において患者、家族、関係する人々の多様な価値観を尊重し、適切な看護が実践できる。
3. 医療人として必要な論理的思考、専門知識、技能を用い、科学的根拠に基づいた問題解決を図ることができる。
4. 対象者をとりまく多職種と看護職との関係、役割、連携、協働の必要性及び自らの役割と責任を理解している。